

予後良好であった HHV-6 関連急性壊死性脳症における サイトカインの意義

井原由紀子¹⁾ 井上 貴仁¹⁾ 安元 佐和¹⁾
松藤まゆみ¹⁾ 大府 正治¹⁾ 廣瀬 伸一¹⁾
宇都宮英綱²⁾ 満留 昭久³⁾

1) 福岡大学医学部小児科
2) 福岡大学医学部放射線科
3) 国際医療福祉大学大学院

要旨：Human herpesvirus 6（以下 HHV-6）感染に関連した急性壊死性脳症（acute necrotizing encephalopathy以下 ANE）の1例について、血清・髄液中の炎症性サイトカインを経時的に測定した。症例は1歳2ヶ月男児。発熱3日目に全身性けいれんで発症し、5病日の頭部 MRI 所見より ANE と診断した。髄液中の HHV-6DNA 陽性、ペア血清で HHV-6 特異的 IgG の有意な上昇を認め HHV-6 感染に関連した ANE と診断した。ステロイドパルス療法を施行し、後遺症なく軽快した。今回測定した炎症性サイトカインのうち IL-6 の髄液中濃度は血清を上回って推移し、ステロイドパルス療法後低下したが、回復期に再上昇を認めた。炎症性サイトカインの推移が ANE の発症や回復過程に関与している可能性が示唆された。

キーワード：急性壊死性脳症, サイトカイン, HHV-6, IL-1 β , IL-6, TNF- α